

AAP

# 合同展示会を開催

## アジア縫製16社が集結

アジア・アパレルものづくりネットワーク(以下AAP)、小島正憲代表理事(11日から21日まで、東京・渋谷区のオーダー・オブ・メリット・プランニング(OMP)で)第1回合同展示会を開催している。アジアに進出しているアパレル生産企業を中心に、NPO法人で、顧客開拓などを目的に16社が参加した。

中国縫製のコストアップや人手不足で、アセアン、南アジアに生産シフトが加速している。中国はカンボジアの土地を買い、韓国はミャンマーの

縫製工場を押さえる(和田博AAP事務局長)動で進出に後れをとっていきが活発だ。しかし、日



合同展の会場

このため、メイドバイ・シヤパンを目標とする縫製業者を中心に昨年7月、AAP設立総会が開かれた。現在正会員30社、協力会員10社、特別会員1社で構成する。アジアにおける

2010年代の日系アパレル生産企業生き残りのため、情報交換などを行っている。今回展は「AAPの認知度を高め、営業面での販路開拓も行うのが目的。これを契機に委託加工から提案型企業への脱皮も図りたい」と和田事務局長と、16社(縫製工場13社、港灣運送・副資材3社)が合同展に参加した。

また、各社の会社パンフレットも用意され、ブランド展開の展不会ではなく、勉強会の意味が大。NPOのため、一般公開した。多くの方に存在を知ってほしい」と続けた。AAPでは今後、年2回の展示会も検討していく。

地域的には中国をはじめ、ベトナム、バングラデシュ、カンボジア、ラオス、ミャンマー、インドネシアの7カ国。展示会場を提供し、企画・監修も担ったOMPの宮崎守代表取締役によると「ラックごとに各社の製品や生地をまとめた。製品で約100点を出品。会場ではアセアン各国の関税一